

明日へつなごう 命のレール

特別音楽会では、分割・民営化時の JR 北海道会社に採用されず、東日本会社に採用になり、ふるさとを離れなければならない時の事や、東日本で闘いをうたい上げました。

社宅の中では、子どもを置いて行かなければならないご家庭や、年老いた両親に「俺たちを見捨てて行くのか」と言われ悩んでいた人もおり本当につらい思い

を抱いて、海を渡ったことを思い出しました。当時はまだまだ、津軽海峡を渡るということは遠い外国にでも行くような気持ちの人たちが多かったと思います。勿論私もその一人でした。

首都圏で働き始めても、合唱構成の中で歌われたように、鉄道本務には就けてもらえず、運転手だった S さんはそば屋で、車掌の K さんは、上野駅でお土産売り、私の夫は新橋駅内の喫茶店でボーイ、みんな同じような仕事に就かされました。でも、国鉄労働者としての誇りを胸にみんな頑張りました。

3・4 年後に本務に就ける人が多くなってきましたが、1 時間半もかかる職場へ就かせたり、嫌がらせはまだまだありました。このような JR に家族として訴えるため母さんたちも黙っていません。上野駅前前で状況を話し、みんなで歌ったこともありました。

国鉄のうたごえは、今の JR で起こっていることを含め、日本の労働者の置かれている状況を歌にし、「みんな同じだよ、一緒に手を組んで働き方を良くしましょう」と呼びかけながら、毎年全国各地で開催しております。(来年は宮城です)



今回、函館で開催されたことは本当に嬉しく思っております。

1987 年の分割・民営化の時応援し、支えてくれた沢山の皆さんに「みんな、元気で頑張ったよ」と報告できたように思います。

しかし、100 名超もの自殺者を出し、特に北海道では、ローカル線が廃止され、維持できなくなるとわかっていました。今、そのことで廃止反対運動が

起こっている地域もあります。あまりにも大きな犠牲を払っての改悪でした。二日目の大音楽会では、ローカル線存続の思いを「明日へつなごう 命のレール」として歌い上げました。

単純なことです、原発のように、生きていくため、命を繋ぐために不必要なもの無くす。そして、必要なものを無くさない、そう思う人たちと手をつなぐことが大事だと実感する祭典だったと思います。

(ソプラノ K.Y)